

# 沖縄の巨人伝説

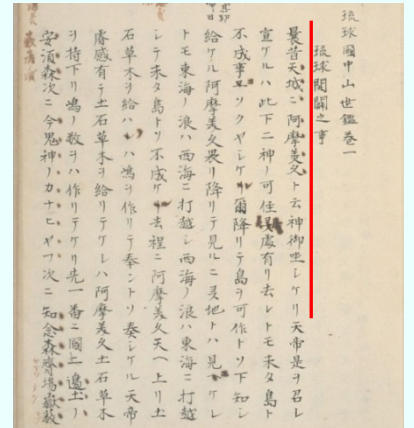
キーワード：巨人 アーマンチュー ヤトゥー サンアイ・イソバ アールパンナ



はいさーい、きじむんやいびーん！くとうしむゆたしくうにげーさびら（今年もよろしくお願ひします）！さて、今回は沖縄に伝わる巨人伝説を紹介するよ。

沖縄諸島の巨人にまつわる昔話や言い伝えを、みんなは聞いたことあるかな？

- 名護市羽地＝「昔、とても天が近くて人間は困っていた。アマミキヨという人が真喜屋の大川と羽地大川のトウシというところに足を踏ん張って天を押し上げたそうだ。昔はその時の足跡が残っていた」
- うるま市安慶名＝「昔、天と地はくっついていて離れていなかった。だから人々は這って歩いていた。アーマンチューがどこからか降りてきて、那覇のユーチノサチ(雪の崎、現在の若狭海浜公園内にある)に立って天をもち上げた。その時のアーマンチューの足跡がユーチノサチに残っているという」
- 南城市佐敷津波古＝「130歳である福人の大主の前にアマンチュー(天人)が現れ、長寿の大主の位と五穀の種を授けた」(民俗芸能「天人(アマンチュ)」南城市指定無形文化財)では、アマンチュを2人が肩車状態で演じる。)
- 渡名喜島＝「タカタンシーという場所には昔、アーマンチュの足跡だという大きな石のくぼみがあった。大昔、アーマンチュは粟国島と渡名喜島をひとまたぎで渡ったそうだ。次に久米島にひとまたぎで渡ろうとしたが、海に落ちて死んだそうだ。」

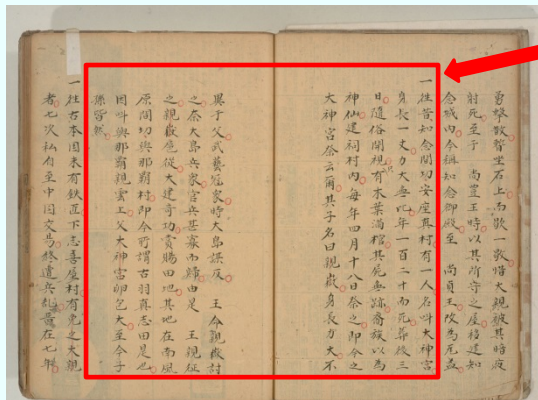


伊波普猷文庫No.23 『中山世鑑』16ページ

「琉球開闢之事」

琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブより

「アーマンチュー(アマンチュ)」とよばれる巨人の話は、上の話以外にも沖縄のあちこちに伝わっているんだ。琉球神話の開闢神「アマミキヨ」(アマミコ、アマミクともいう)の名前をとって巨人の名とされたものだと考えられているよ(写真赤線部分に阿摩美久=あまみくのながみえる)。アーマンチュー以外の巨人話も少し紹介するね。



伊波普猷文庫No.14(3) 『遺老説伝 巻3』6ページ

琉球・沖縄貴重資料デジタルアーカイブより

- 南城市知念＝「昔知念間切の安座真村に大神宮という身長3メートルの男がいた。120歳まで生き、風習に従い葬ってから3日後に棺をあけると、遺体が木の葉になっていた。村人達は彼は神だったに違いないと思い、<sup>ほころ</sup>祠をたてて祀った」
- 与那国町＝「1500年頃、サンアイ・イソバという名の女が島を治めていた。彼女は乳房が4つもあり、身長約2.5メートル、肩幅1メートルでとても怪力だった。」
- 石垣島＝「大昔、石垣島が飢饉になり病気が流行った時に、頭が雲に届くほど大きいアールパンナという男がやってきて、島民の為に月の女神の城へ不老不死の薬を取りに行った。入城を門番に拒否されて暴れたため、女神に動けなくなる術をかけられてしまった。今、月の中にある影はこの時仁王立ちのまま動けなくなったアールパンナなのだそうだ」

沖縄の巨人伝説に出てくる巨人達はよい巨人が多いみたいだね。ところで、「巨人」は首里・那覇方言ではヤトゥーというよ。琉球大学附属図書館ホームページのデジタルギャラリー内にある『琉球語音声データベース』で発音を聞くことができるからぜひ聞いてみてね。(AH)

【参考文献】 具志川市教育委員会、『ふるさとの昔ばなし 具志川市の民話(I)』、1981年  
 名護市史編さん室、『名護市史叢書・14 羽地の民話』、名護市教育委員会、1993年  
 法政大学沖縄文化研究所、『沖縄渡名喜島における言語・文化の総合的研究』、1991年  
 沖縄タイムス社、『沖縄大百科事典』、1983年  
 南城市公式web サイト  
 八重山昔ばなしセミナー、『おきなわ 八重山昔ばなし』、2003年

ココをチェック!

